

各会議等の実施状況報告について		提出日	令和7年3月17日（月）
		担当課	スポーツ・生涯学習課
会議名称 湖西市青少年育成センター運営協議会 開催日時 令和7年2月18日（火）13：28～14：35 開催場所 市民活動センター 2階 大会議室 出席者 委員9名（うち代理2名）、事務局5名 【計14名】 ※傍聴者なし			
1 開会 2 会長あいさつ ・この1・2月にいろいろな行事で青少年に直接接する機会があったが、親子のつながりや仲間との励まし合い等、微笑ましくて望ましい姿がたくさん見られてうれしく感じた。 ・皆さんの地道な声掛けや活動が青少年の健全な成長につながっていくことだと考えている。 3 協議事項 （1）令和6年度 湖西市青少年育成センターの活動報告について （事務局説明） [質問・意見なし] [拍手多数により承認] （2）令和7年度 湖西市青少年育成センターの活動計画案について （事務局説明） [質問・意見なし] [拍手多数により承認] 4 湖西市内の現状報告 【湖西警察署】 ・西部地区管内で、刑法犯、補導数とも最も少なく、非常に落ち着いた地域である。 ・スクールサポーターを今年度から設定し、市内各校のサポートも行っている。 ・闇バイトが大きな問題となっている。SNSを通して、闇バイトに知らない間に加担したり、被害に遭ったりしていることもある。学校を通して子どもにも呼び掛けていきたい。 ・各家庭や学校でも、防犯カメラや防犯灯の設置を検討してほしい。 【小学校】 ・例年流行が心配なコロナウィルスやインフルエンザ等の感染症は、少なく落ち着いた状況。 ・SNSのトラブルが増加傾向。 ・子どもたちの心身の健康を注意深く見守り、必要に応じて支援するために、市の小・中では、「こころとからだの連絡帳 デイケン」と呼ばれるアプリを導入し、役立てている。 【中学校】 ・市内の中学生は、全体的には落ち着いた学校生活を送っている。 ・感染症の流行はたまに見られるが、学校行事は実施方法を見直しながら元通りに近い形で行われており、学校生活の充実につながっている。 ・今年度、日々の児童生徒の健康観察をデジタル化したアプリ「デイケン」の導入により、児童生徒がSOSを発信できる環境づくりや困難を抱える児童生徒の早期発見・早期対応の一助に。 ・いじめについては、アンテナを高くして情報収集に努めている。中学校では、弁護士による人権講座を市が2年に1回実施し、子ども達にも好評。 ・不登校の背景には様々な要因があるが、教員間の連携を密にとり、対応。各中学校では、集団づくりに力を入れ、専門家に対応についての意見を聴いたり、直接カウンセリングをしていたりしている。できるだけ継続した支援に努めている。 ・関係機関の方々のご協力によって、安全に安心して、登下校、学校生活を送ることができていることに感謝。 【高等学校】 ・あいさつは、よくできているとの評価。校内のみならず、広い人間関係にも目を向けさせたい。			

- ・18歳の壁といわれ、社会に出るまでのつながりがスムーズにできるよう継続して支援していきたい。祭典への参加については、これまでの許可制から個々の判断に任せるように変わってきている。
- ・交通安全に関しては、自転車でのヘルメットの着用等、部活動単位で取り組んでいるところもあるが、学校からも呼びかけていきたい。また、電車内での痴漢対策についてもしっかりと指導していきたい。

5 その他（意見交換）

- ①小中学校で導入された「デイケン」の情報活用・情報共有について
 - ・この情報は、学校教育課と子ども未来課でも共有され、学校と連携している。
 - ・体調が悪かったり、心配事があったりする子どもには、その蓄積により色がつく等の「フラグが立つ」状態になり、注目しやすい仕組み。
- ②高校で、来年度から浜松まつりが許可制ではなくなるについて
 - ・湖西市内の高校のみの対応でなく、すべての高校がそうなる。
 - ・市内の各自治会の祭りも自治会との協議となる。
 - ・地域のイベントに若い方が参加する率が低い。盛り上げるためには、ぜひ地域の高校生や中学生にも参加してほしい。
- ③SNSの使用に対する各学校での指導について
 - ・トラブルの回避の仕方を学ぶプログラムの活用。家庭への周知（保護者との連携）。
 - ・学級単位での担任による指導や警察署の方から全校でトラブルについての事例を学ぶ機会を設けている。
 - ・入学時に危険性についての講話を行ったり、弁護士の方から対応の難しさについての話を伺ったりする機会を設けている。
- ④16、17歳の若者が闇バイト等の犯罪に巻き込まれる原因について
 - ・一番大きいのは、家庭内で、子どものことが把握できていないこと。必要最低限の会話をすること。まずは、あいさつからコミュニケーションをはかること。
 - ・犯罪に巻き込まれないよう啓発活動を続けて行っていかなければならない。

6 閉会